

2020.02.21

当事者本人、家族が求める居場所と
その効果について
(2020.02.10現在の速報値)

境 泉 洋

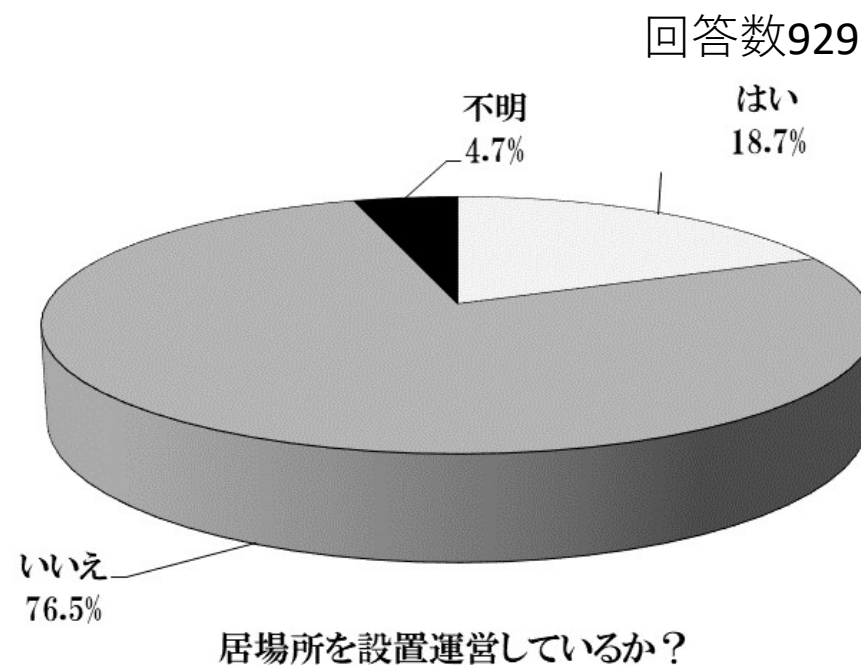
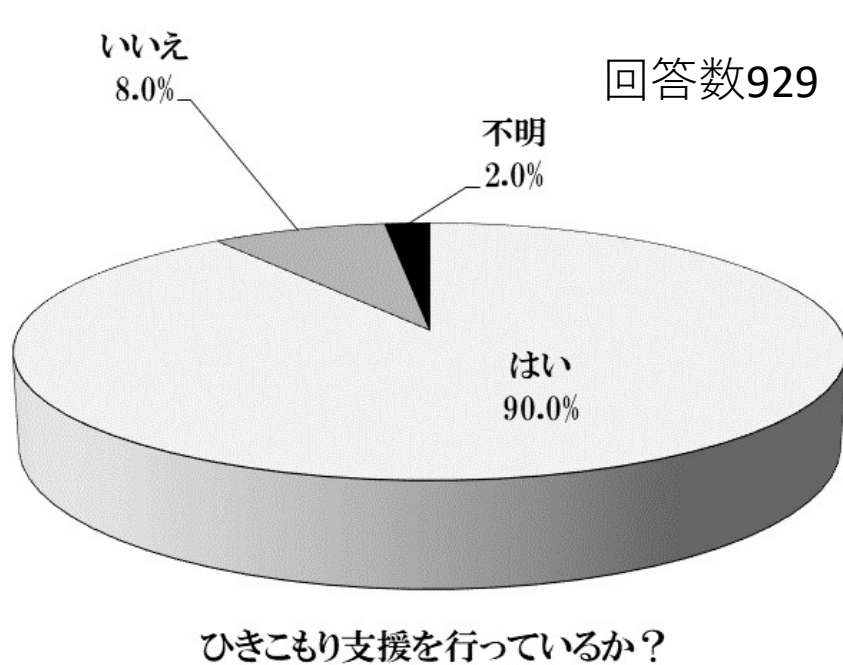
宮崎大学教育学部

調査 1

居場所設置状況調査

ひきこもり地域支援センター75カ所、並びに生活困窮者自立相談支援窓口1318カ所を対象に令和元年12月に実施し、回答数929カ所（回収率66.7%）から回答が得られた。

居場所設置状況調査

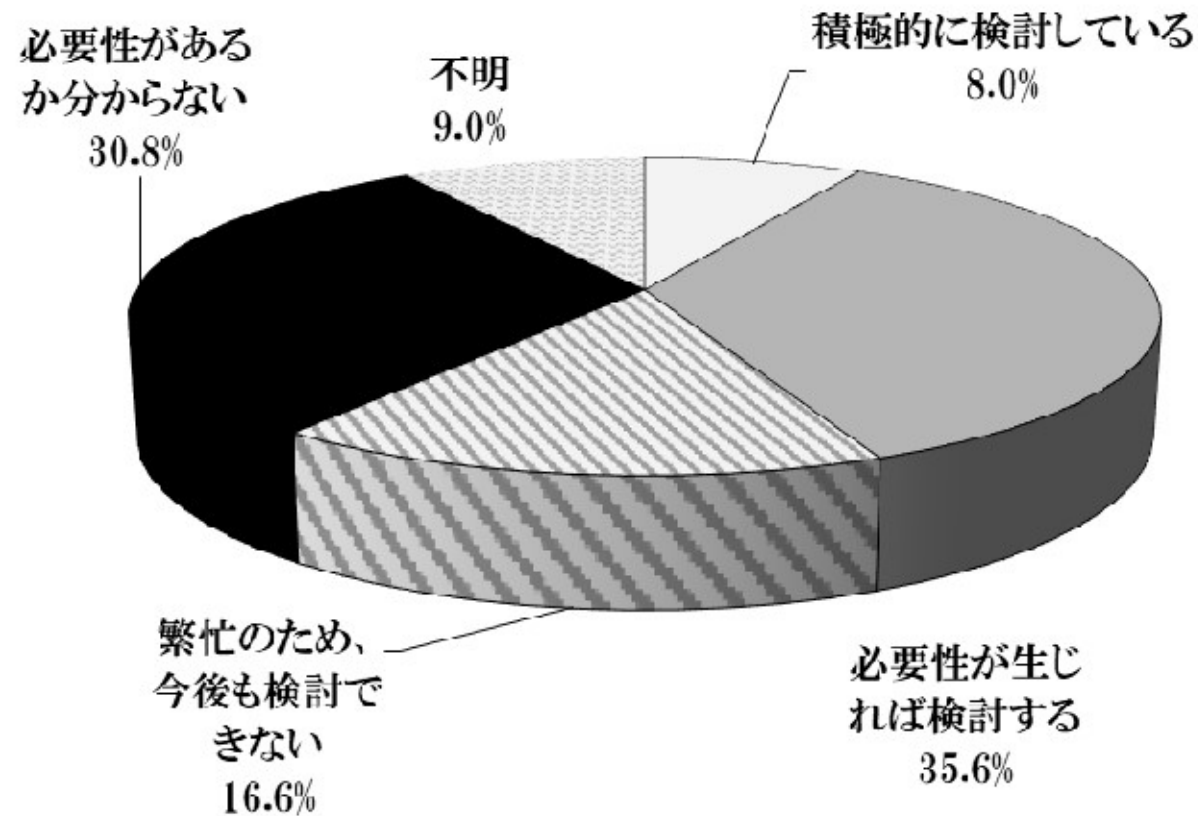


居場所設置状況調査

- 居場所の運営方法（回答数**174**）
 - 職員・スタッフが運営：**87**カ所
 - 自機関の名称を使い運営は外部委託：**30**カ所
 - 自機関の会場を提供し運営は外部委託：**14**カ所
- 委託している場合の理由（回答数**44**）
 - ひきこもり支援に対する実績がある：**31**カ所
 - 設置・運営したい旨の依頼があった：**8**カ所
 - 繁忙のため設置・運営ができない：**8**カ所
 - その他：**24**カ所

居場所設置状況調査

回答数711



居場所を設置する予定があるか？

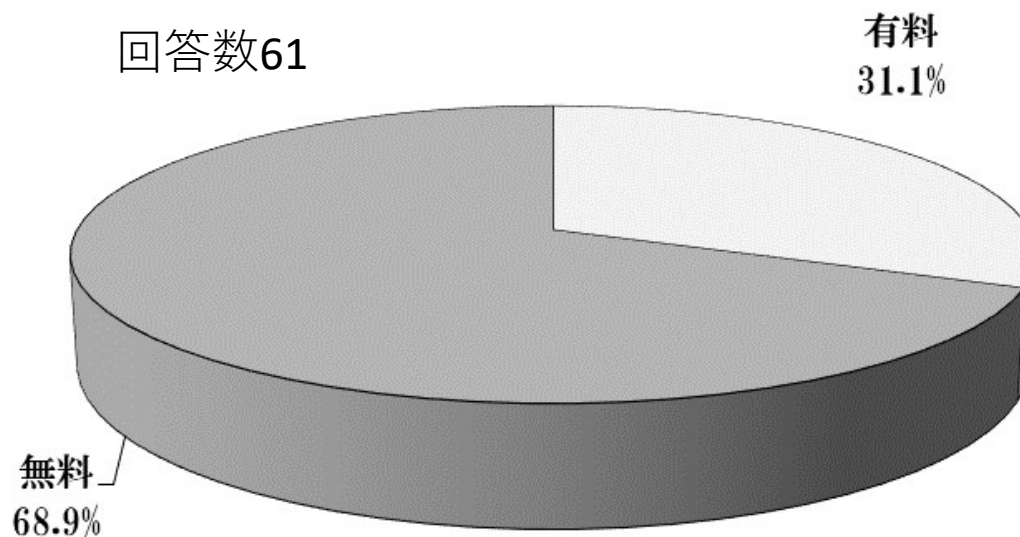
調査 2

居場所運営者調査

ひきこもり地域支援センターに設置されている居場所45カ所、調査事業委員の推薦、及びウェブ調査による242カ所を対象に、令和元年12月に調査を実施し、61カ所（回収率21.3%）から回答が得られた。

居場所の運営者調査

- 運営開始 平均2010年（最長1987年、最短2019年）
- 利用料金
 - 有料：19カ所（月額平均29,732円、1回平均607円）
 - 無料：42カ所



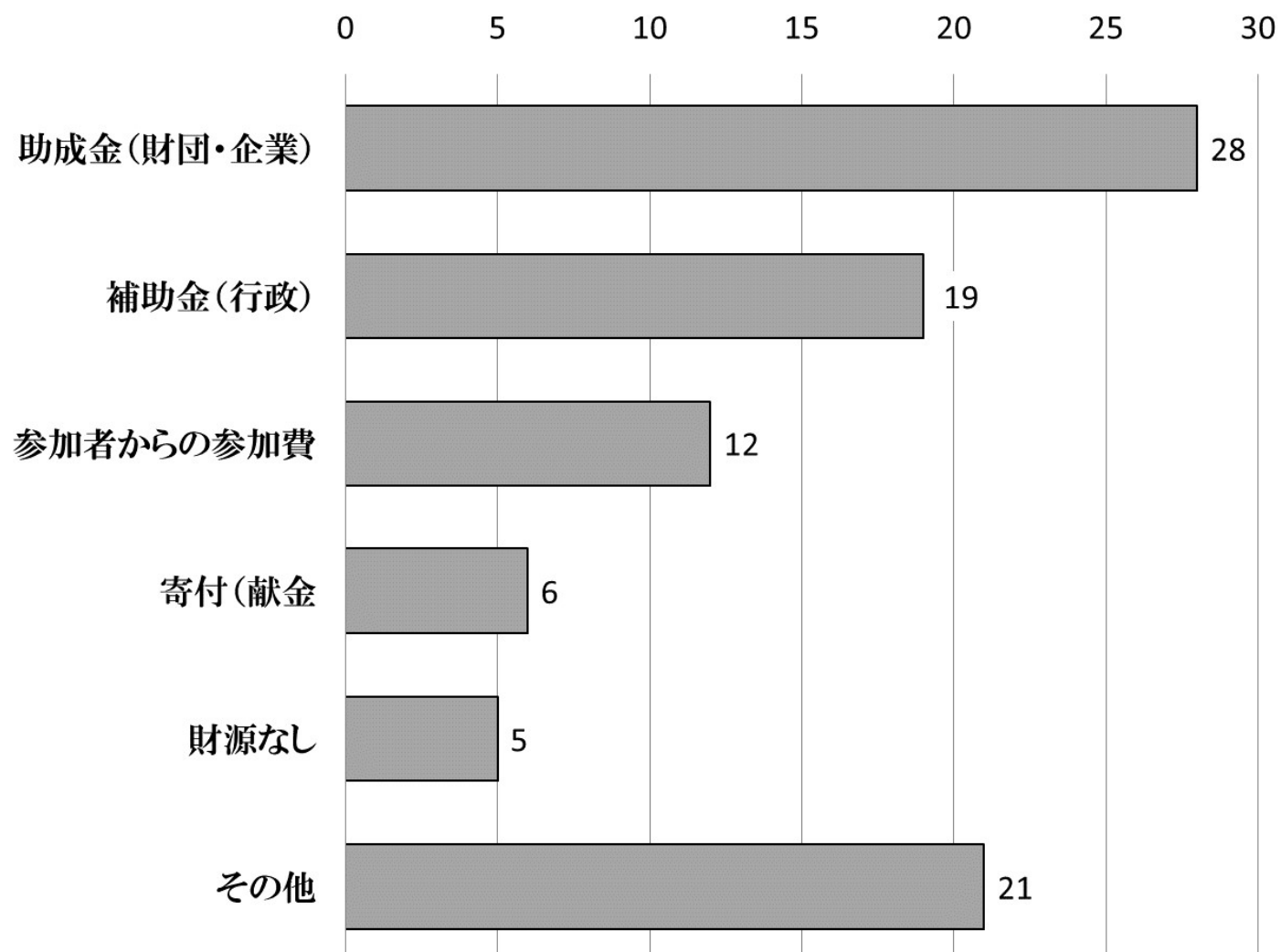
居場所の利用料金の有無

居場所の運営者調査

- 団体施設状況
 - 単独常設：21（+ 1）カ所
 - 賃貸常設：16カ所
 - 合同常設：8カ所
 - 非常設賃貸：7（+ 1）カ所
 - その他：6カ所 不明：3カ所
- 参加人数：6.7人（最小1名、さいだい2名）
- 参加者の性別：男68%、女31%、その他5%
- スタッフ：有償平均3.3人（最小0人、最大31人）
無償平均1.8人（最小0人、最大15人）

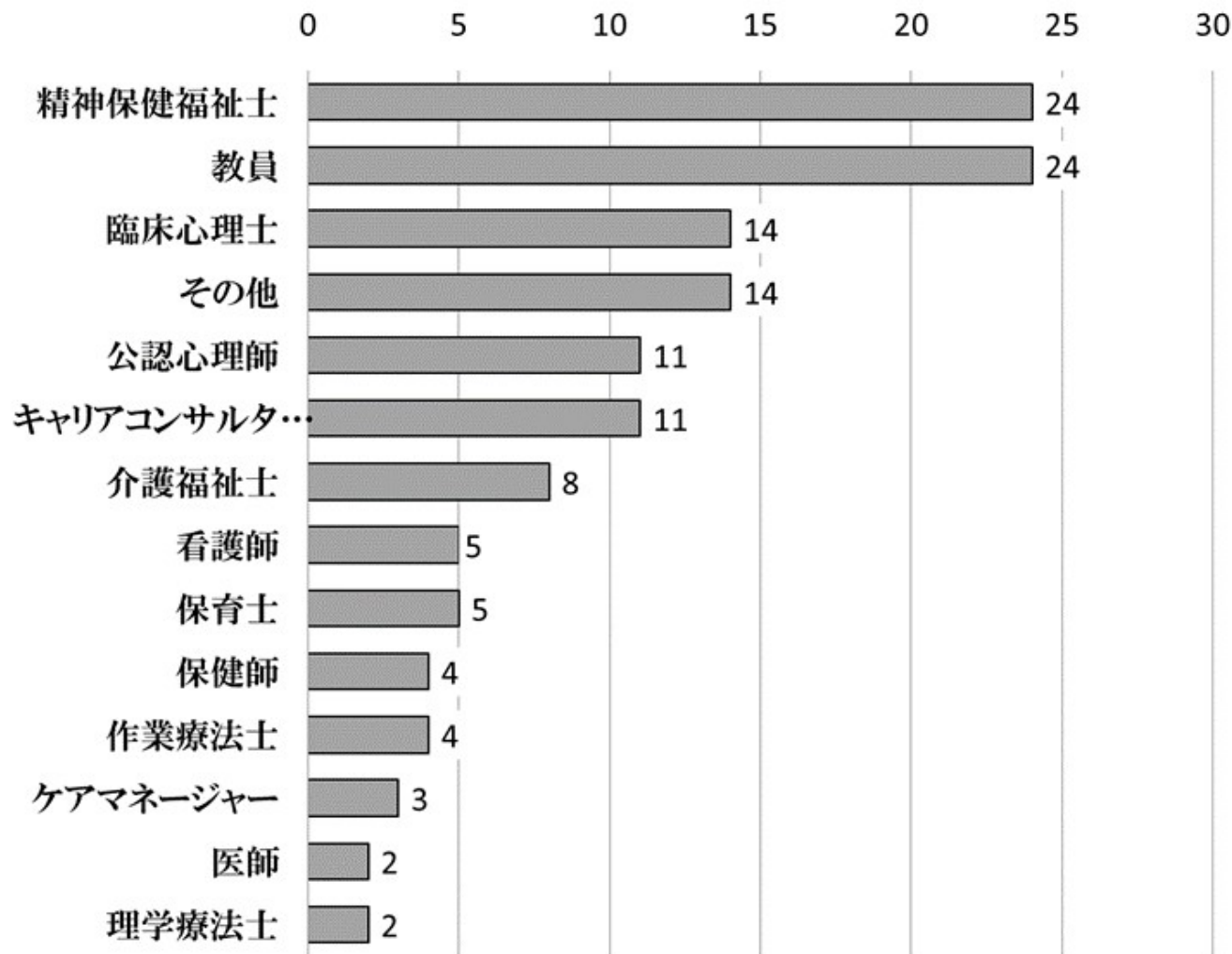
居場所運営の財源

回答数61 (複数回答)



居場所スタッフの資格

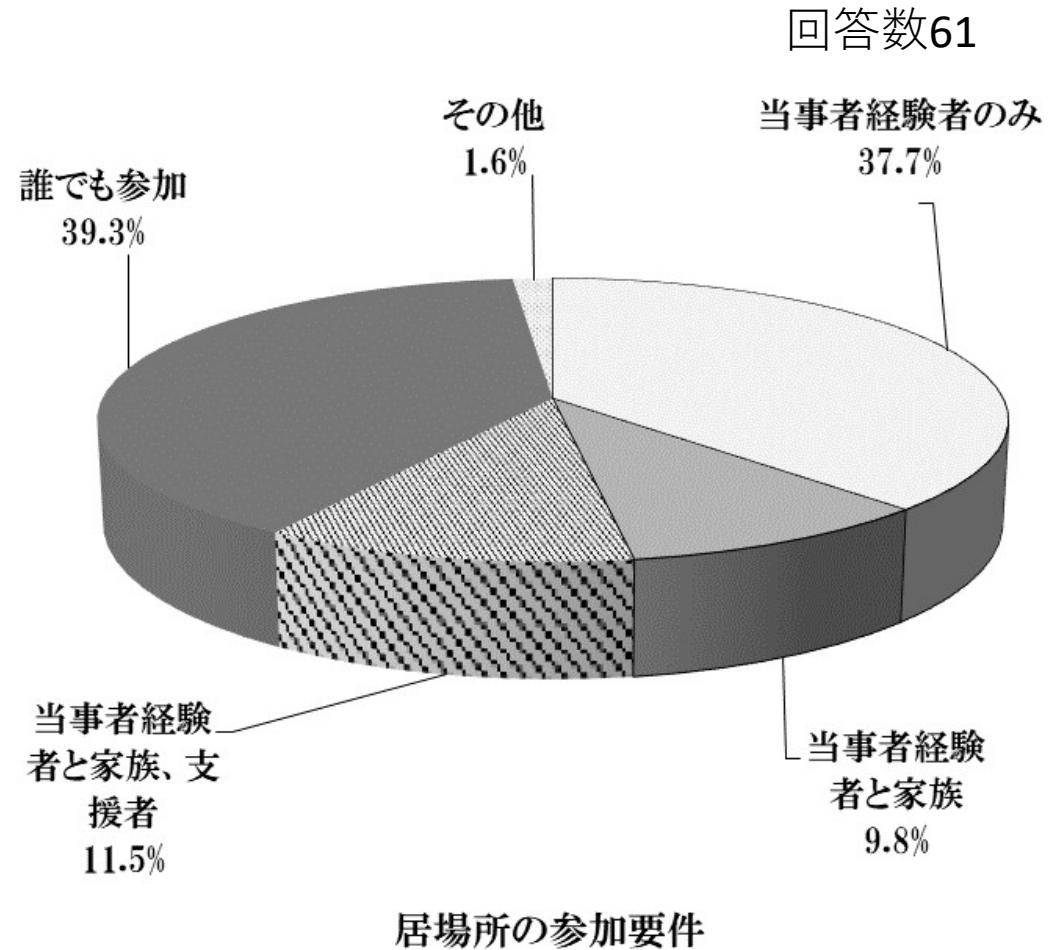
回答数61
(複数回答)



居場所運営者調査

• 主な事業

居場所支援事業
55カ所、相談支
援事業51カ所、
家族支援38カ所、
地域とのネット
ワーク事業34カ
所

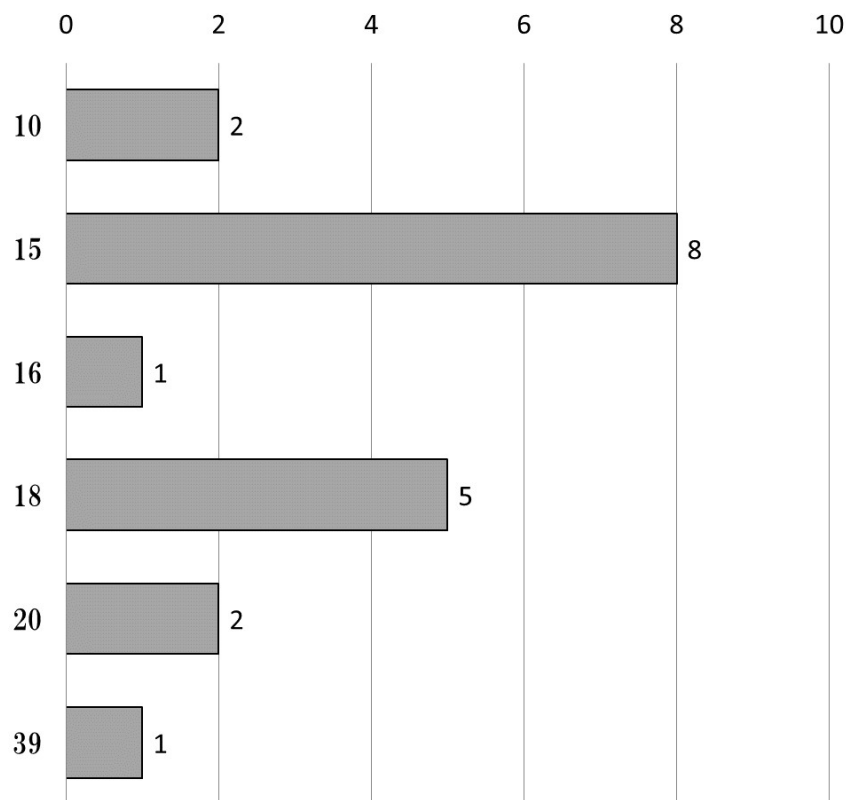


居場所参加の年齢制限

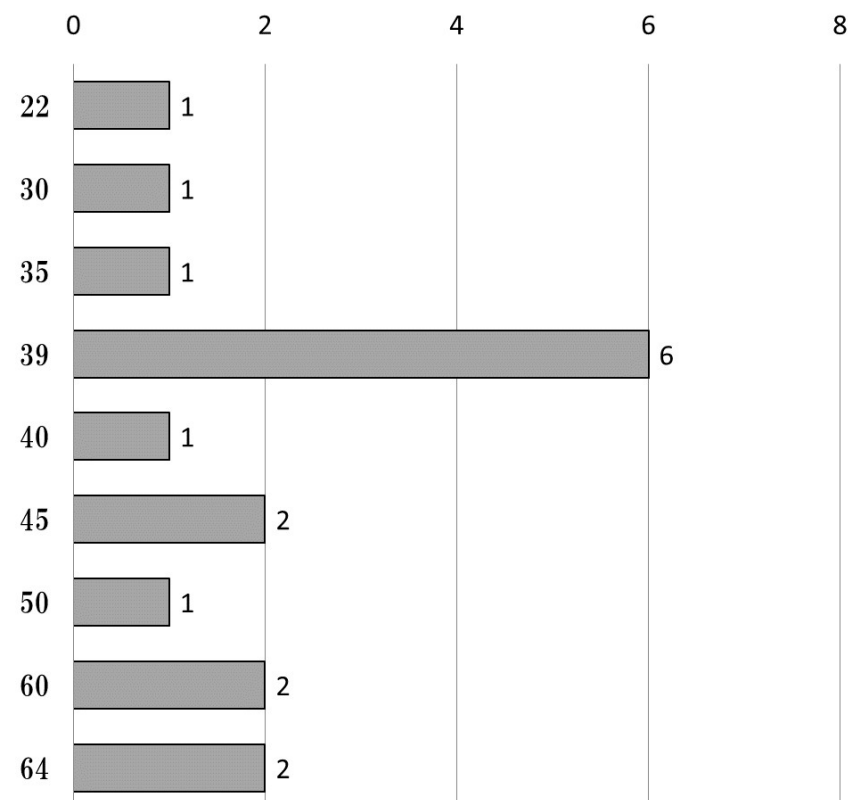
年齢制限 なし：43カ所 あり：19カ所

回答数19

回答数18



年齢制限(下限)



年齢制限(上限)

居場所運営者調査

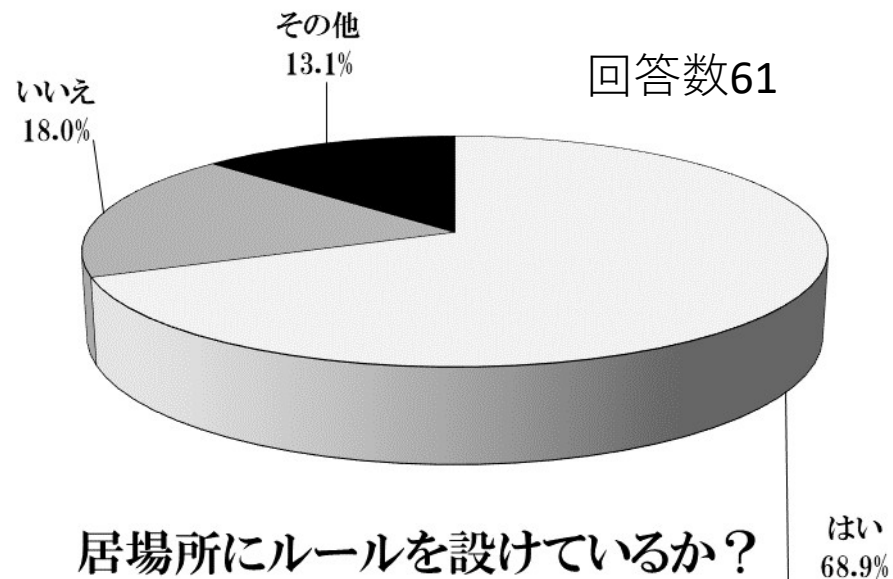
- 女性支援

性別にとらわれず行っている：38カ所

女性の支援者を配置して対応：19カ所

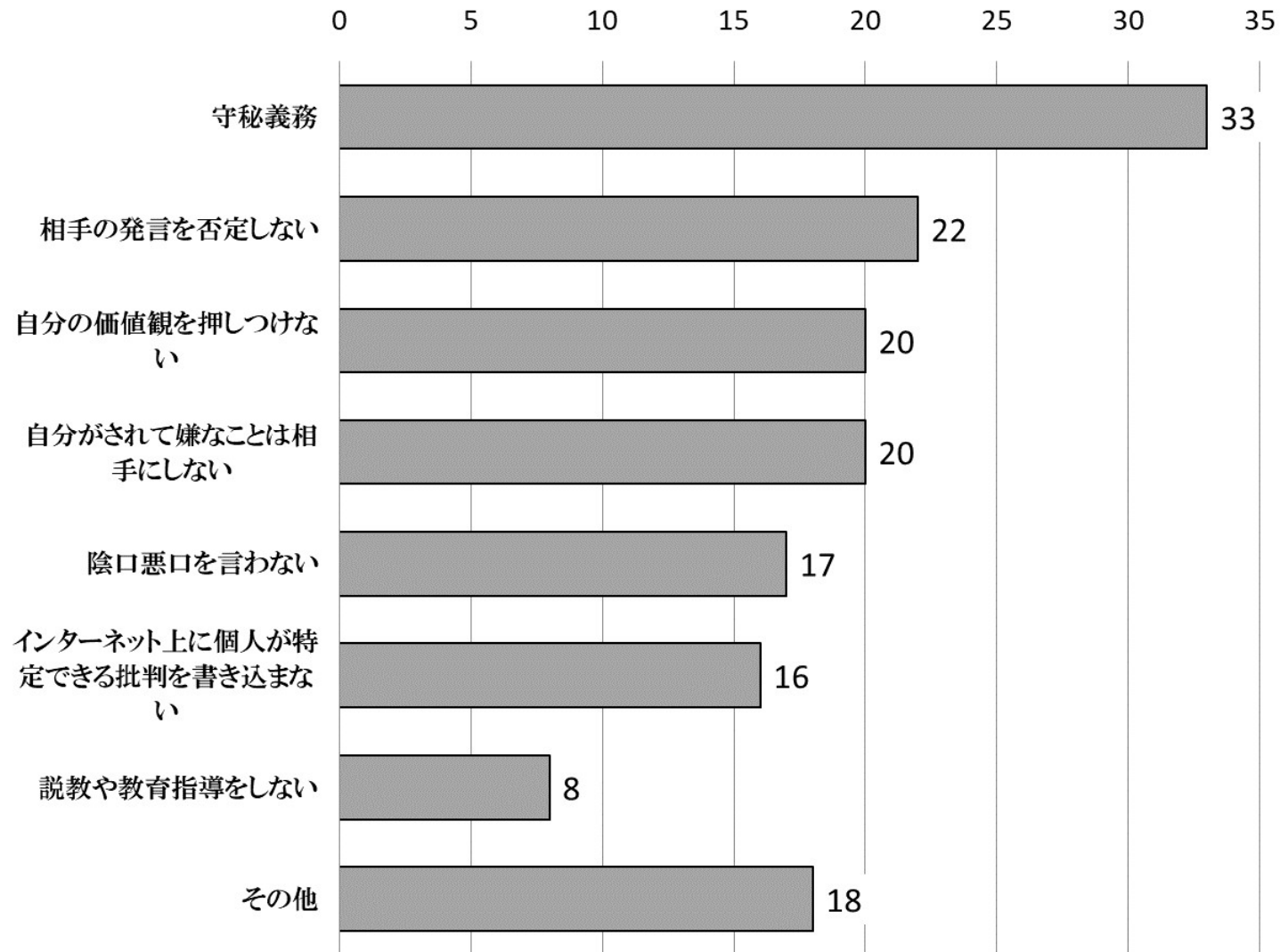
女性に配慮した運営を心掛けている：10カ所

女性だけの居場所を設置している：8カ所



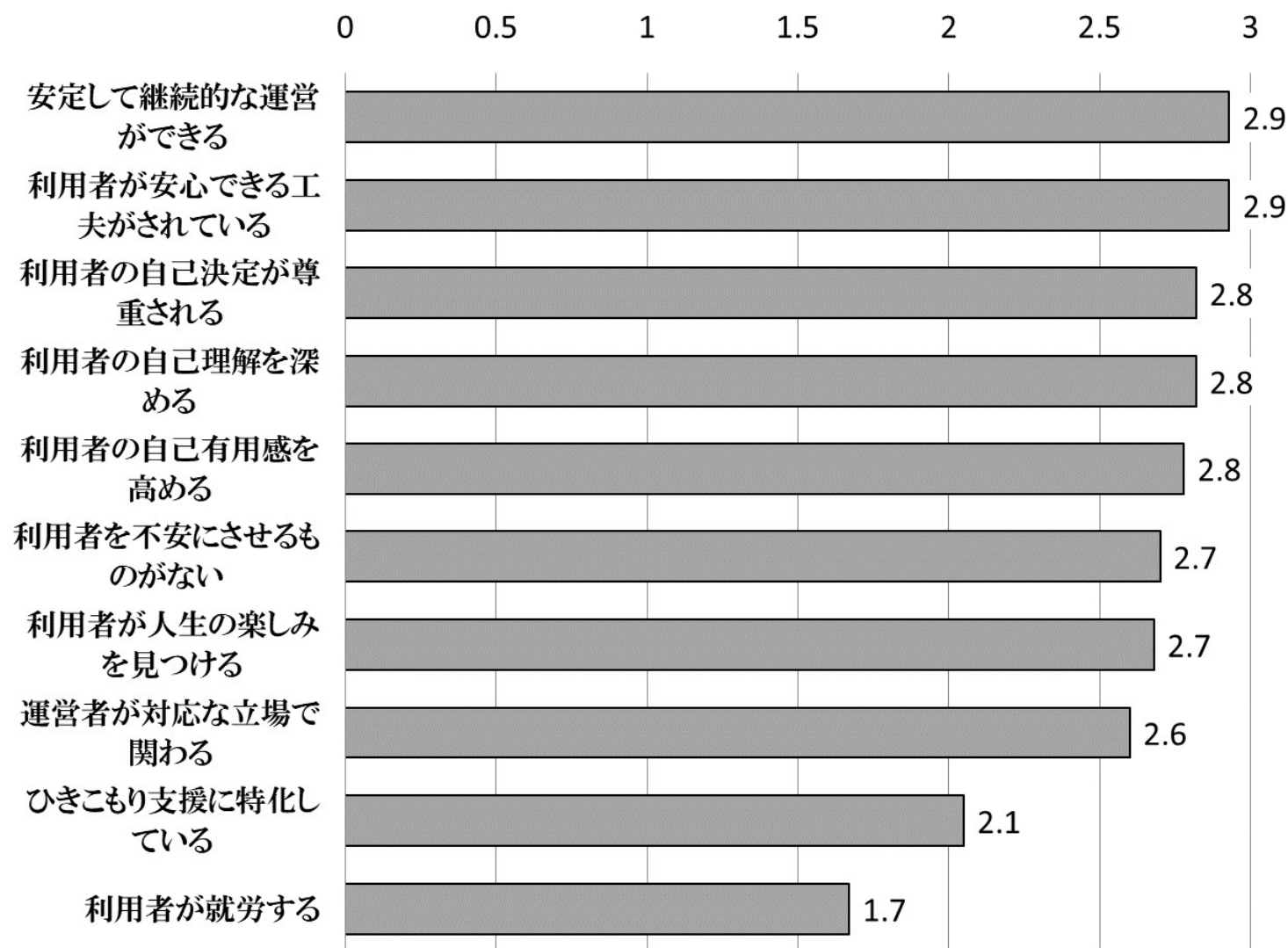
居場所のルール

回答数61 (複数回答)

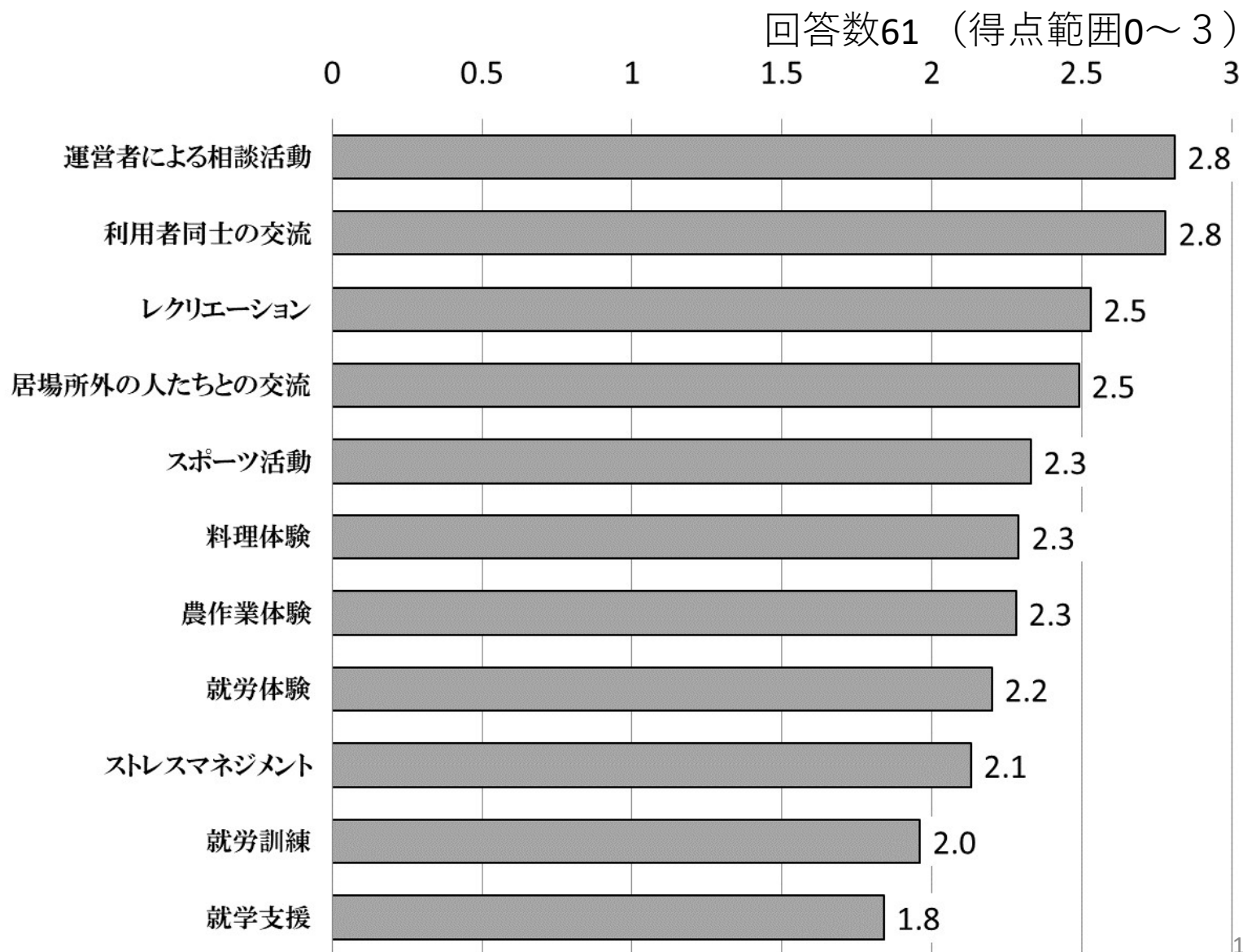


居場所運営において重要な点

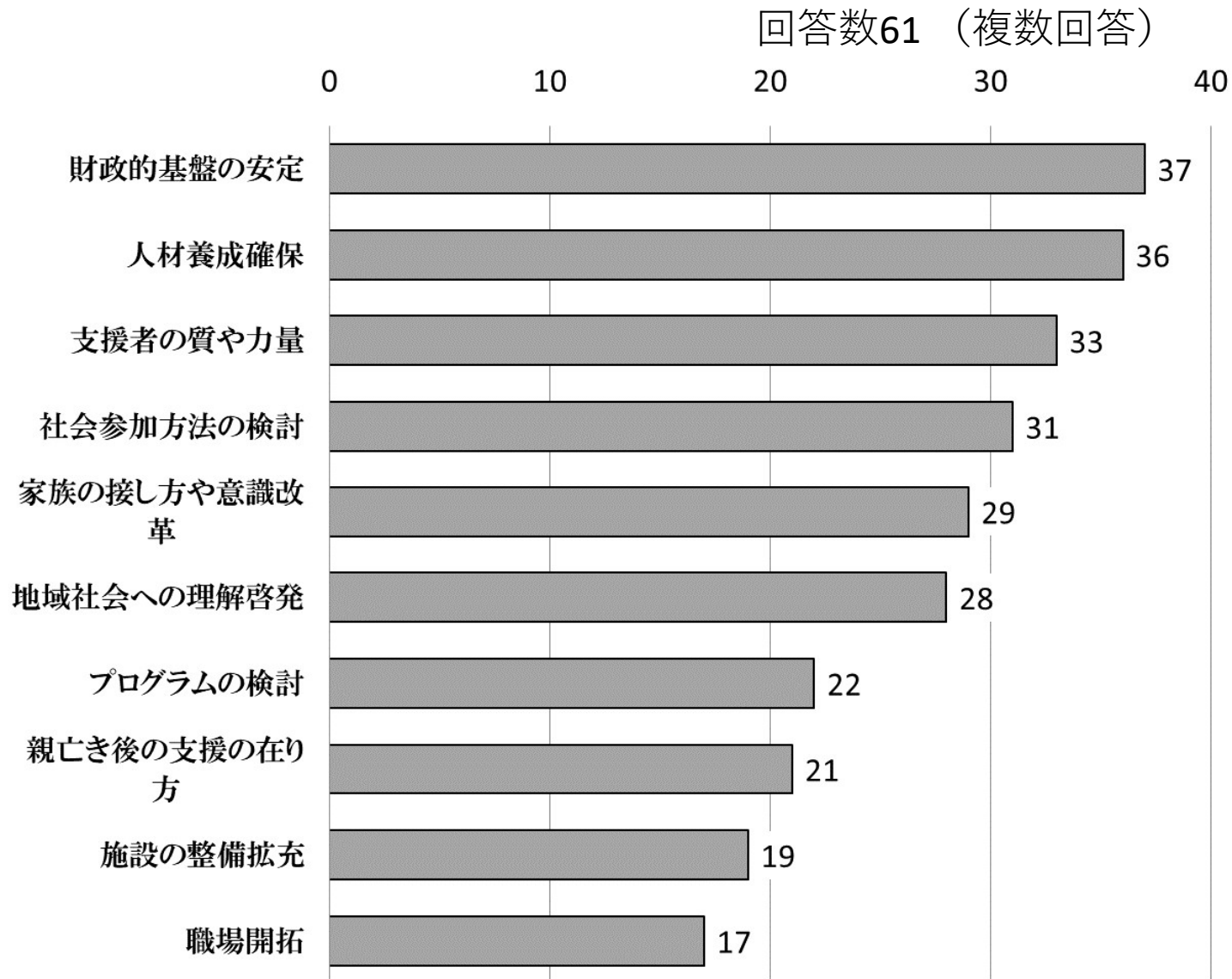
回答数61 (得点範囲0~3)



居場所において有効な活動



居場所運営における課題



調査 3

居場所利用者調査

ひきこもり地域支援センターに設置されている居場所45カ所、調査事業委員の推薦、及びウェブ調査による242カ所の利用者を対象に、令和元年12月に調査を実施し、ひきこもり経験者156名、その家族50名から回答が得られた。

居場所の効果に関する調査

本人

- 156名（平均年齢32.5歳、性別：男性102名、女性52名、その他2名）
- 現在のひきこもり状態
あり：54名
なし：102名

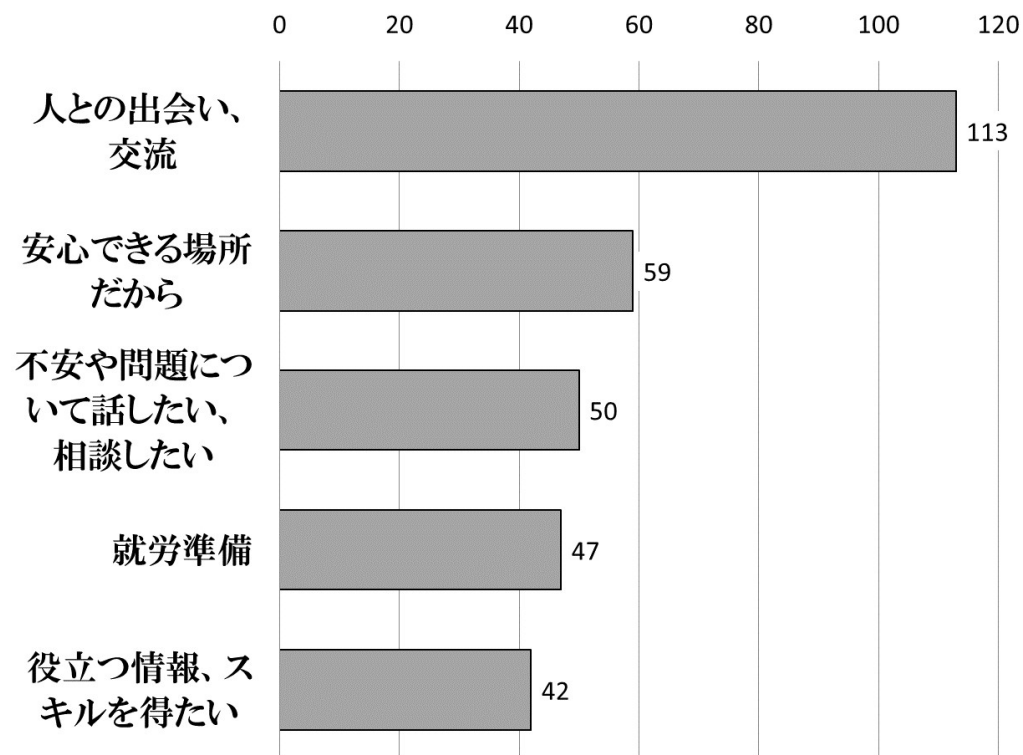
家族

- 50名（平均年齢：57.5歳、性別：男性13名、女性37名、その他0名）
- 現在のひきこもり状態
あり：34名
なし：16名

居場所の参加理由

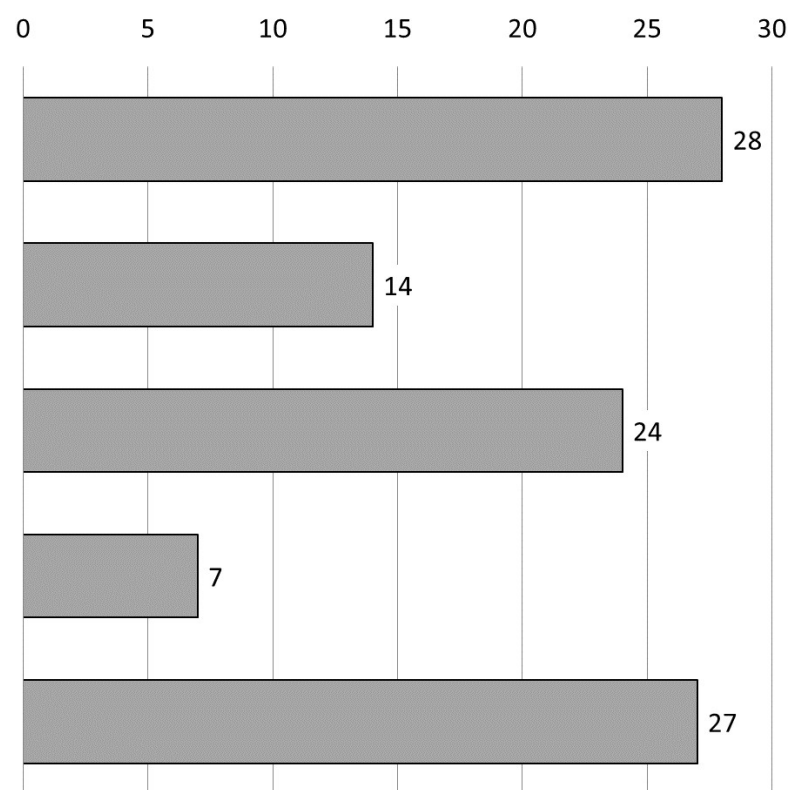
本人

回答数156 (複数回答)



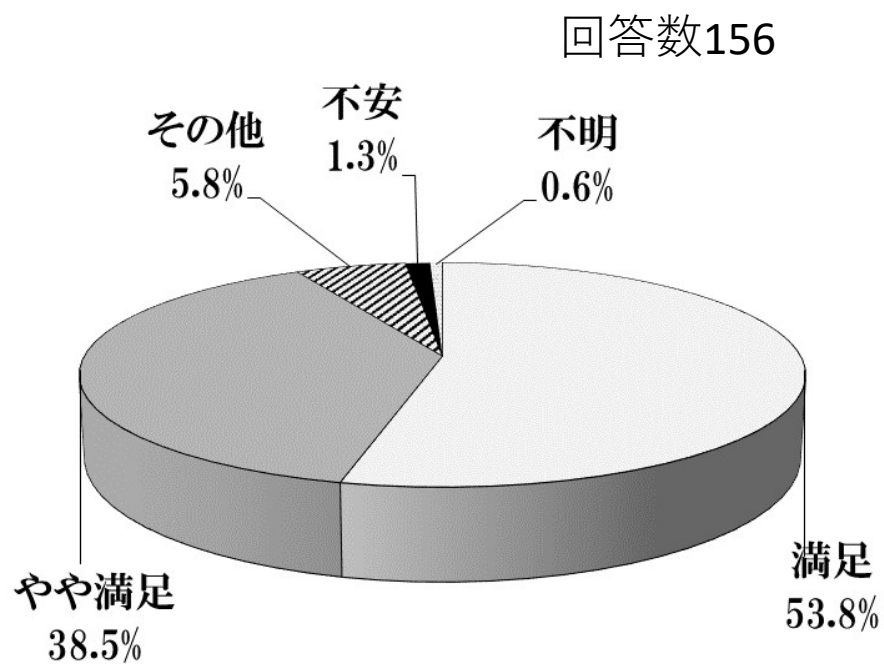
家族

回答数50 (複数回答)

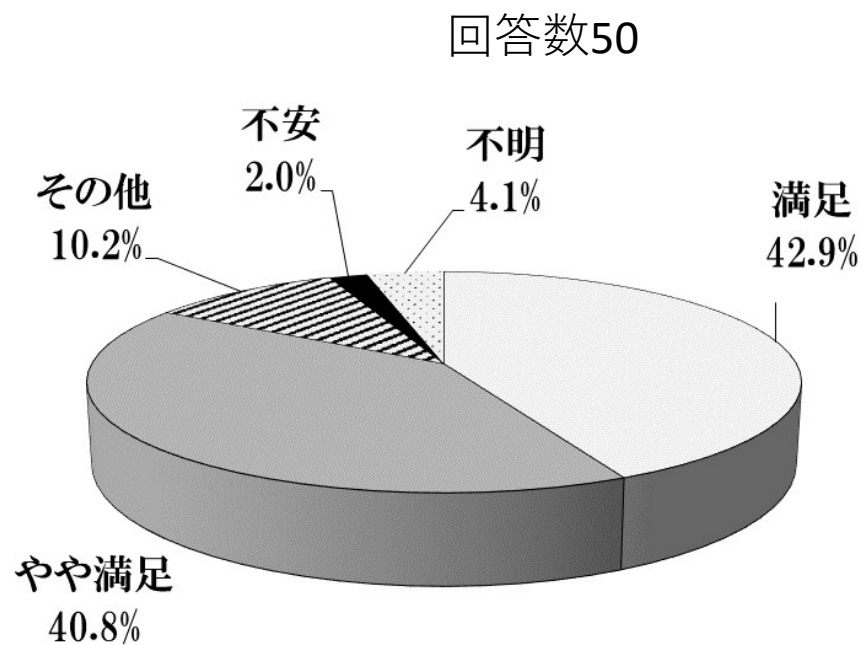


居場所の満足度

本人



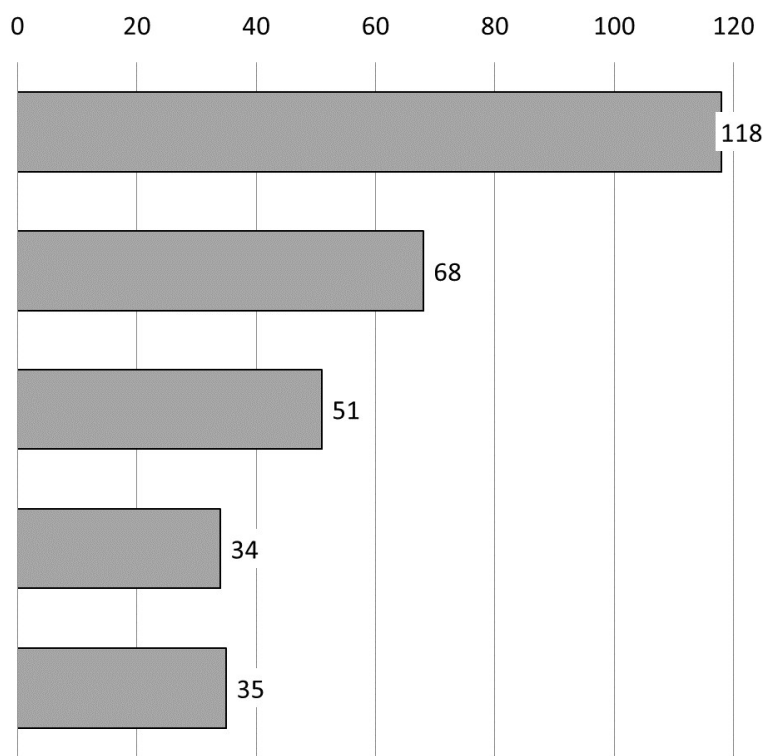
家族



居場所で満足した点

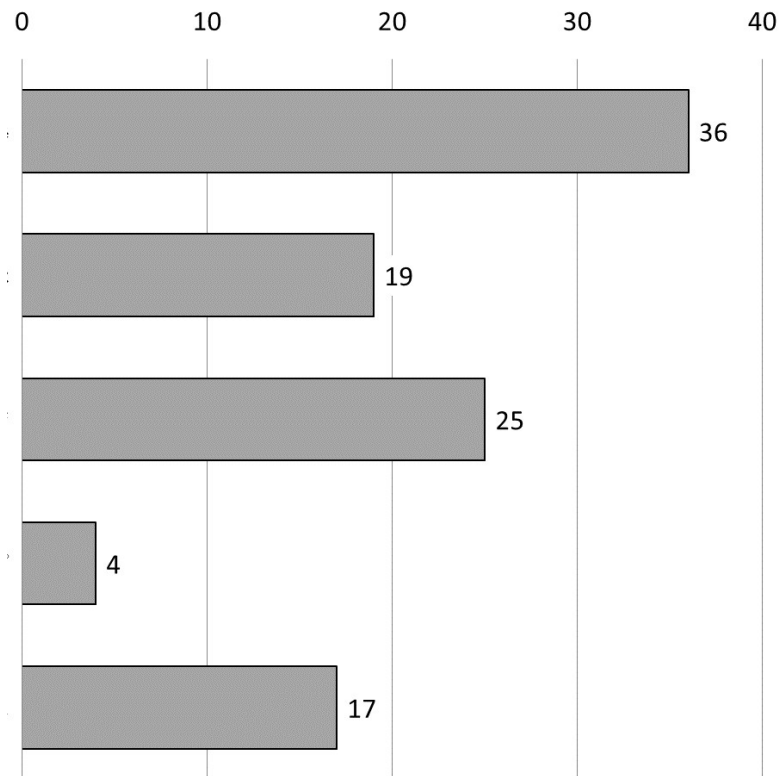
本人

回答数156 (複数回答)



家族

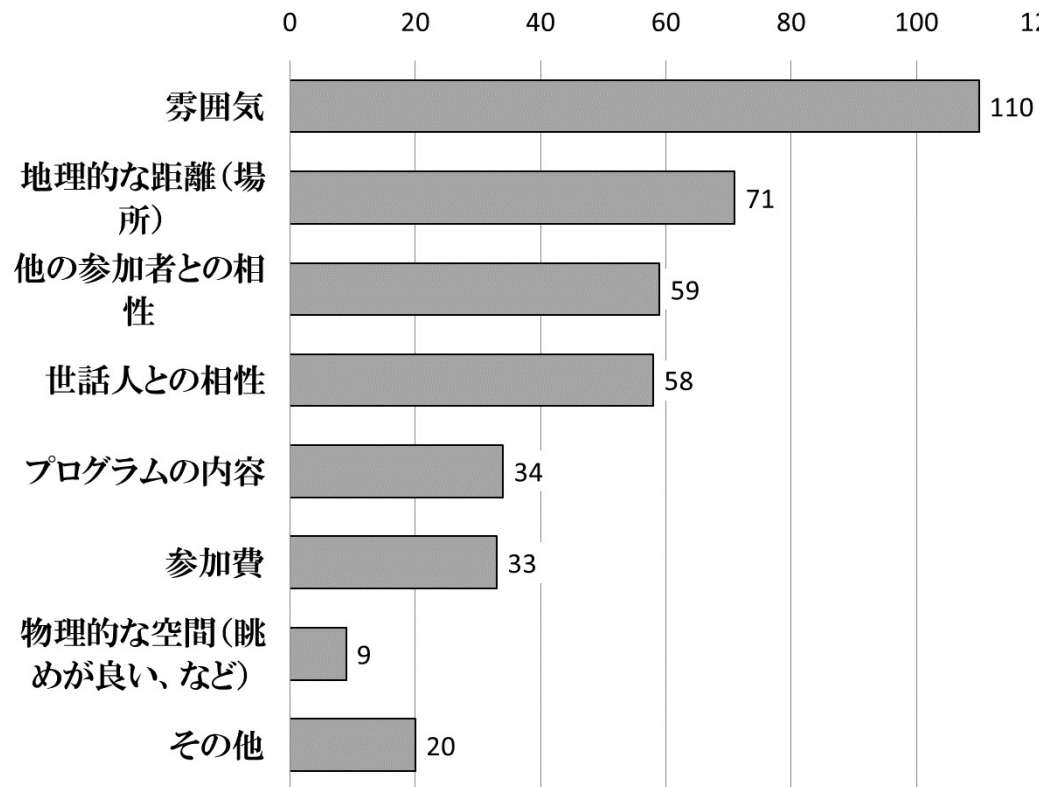
回答数50 (複数回答)



選ぶ上で大切にしたい点

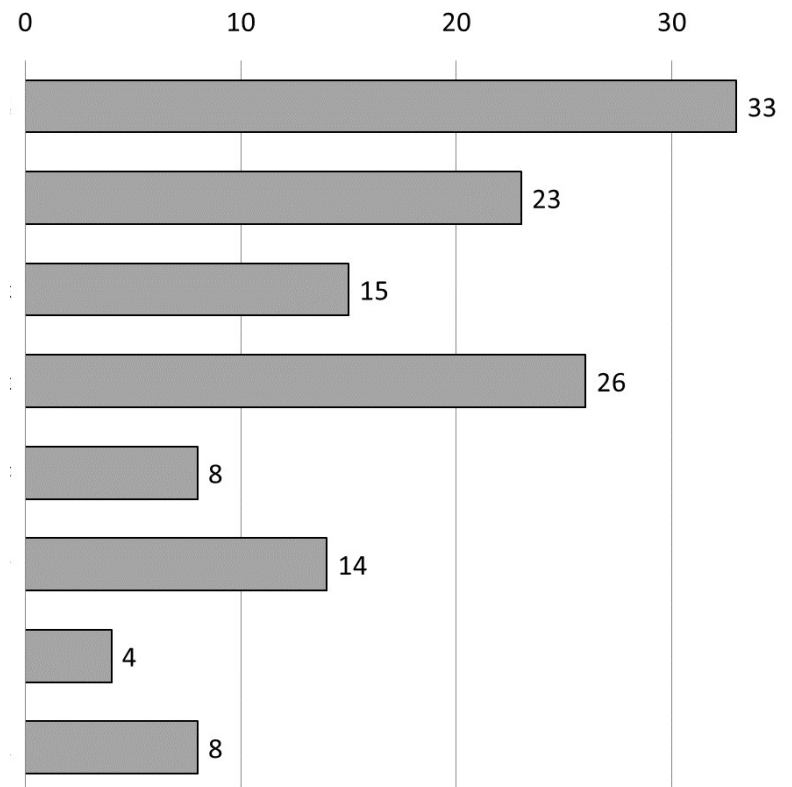
本人

回答数156 (複数回答)



家族

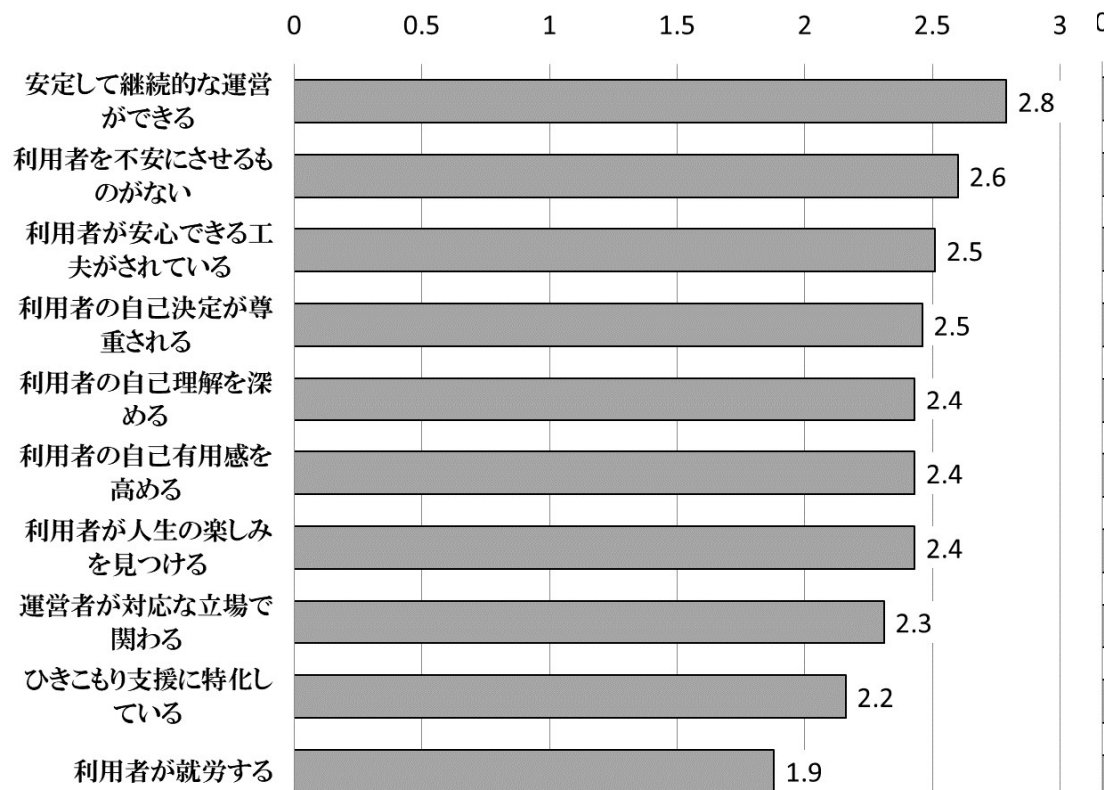
回答数50 (複数回答)



居場所運営において重要な点

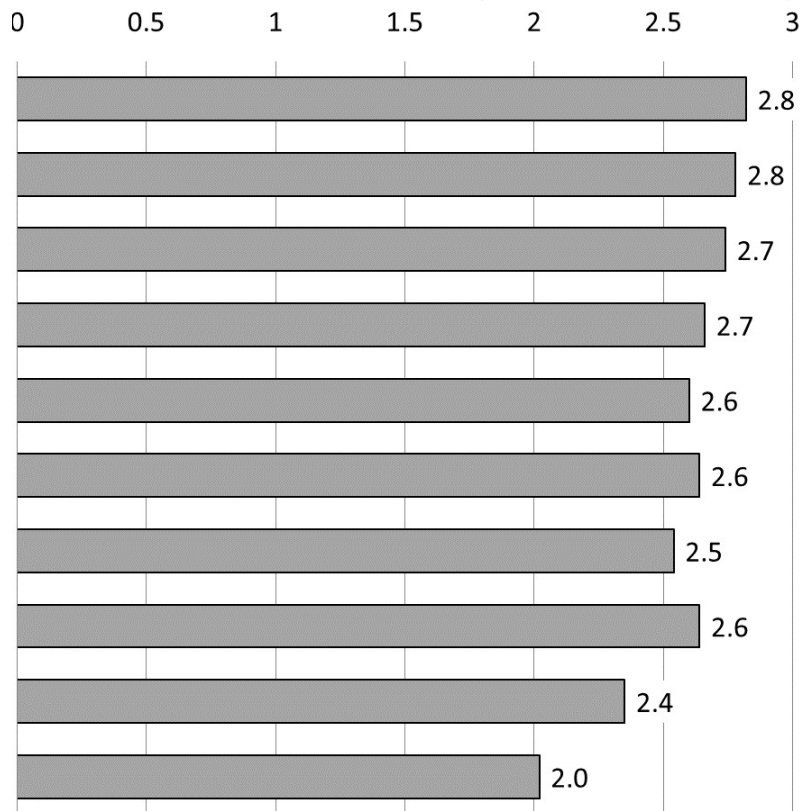
本人

回答数156 (得点範囲0~3)



家族

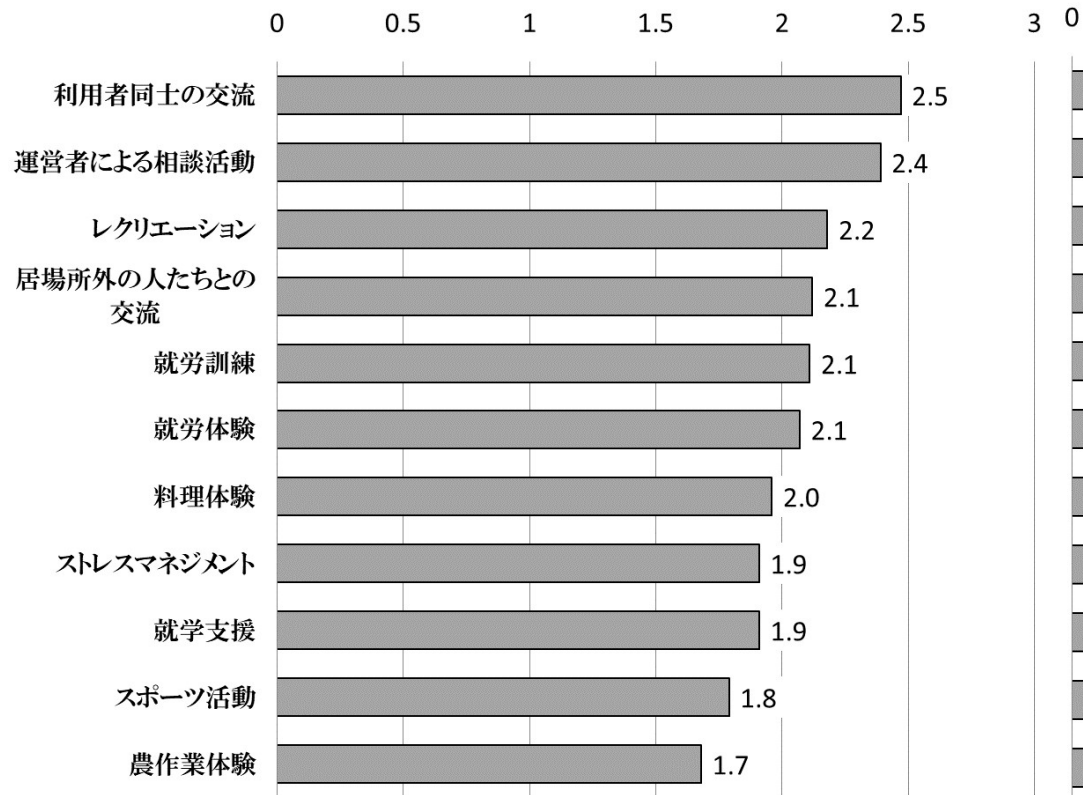
回答数50 (得点範囲0~3)



居場所において有効な活動

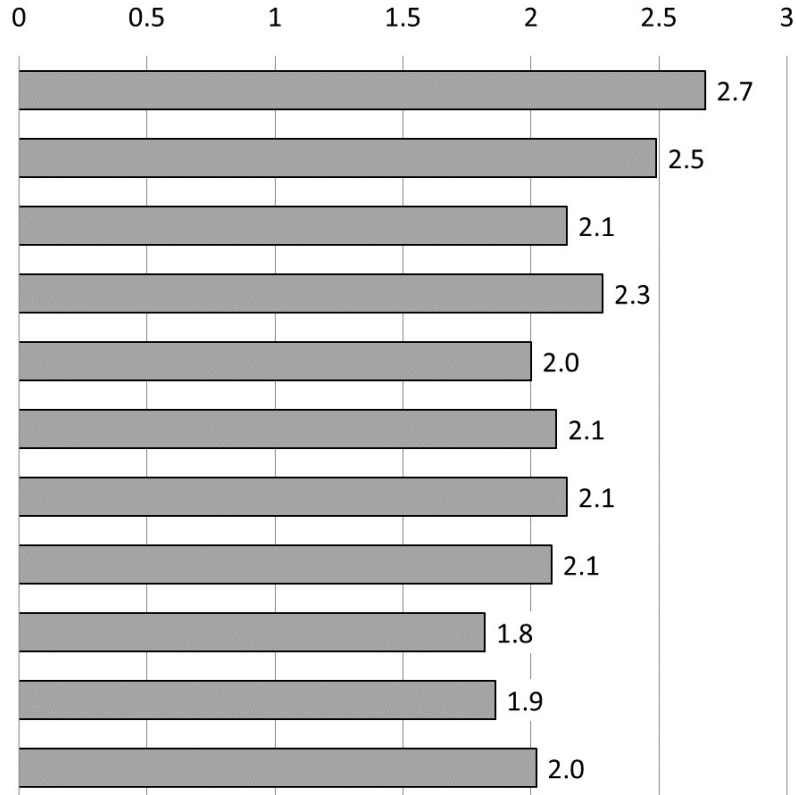
本人

回答数156 (得点範囲0~3)



家族

回答数50 (得点範囲0~3)



調査 4

KHJ支部調査における 居場所に関する調査

KHJ全国ひきこもり家族会連合会の支部が令和元30年12月～令和2年1月に開催した月例会において実施し、ひきこもり経験者65名（以下、本人）、ひきこもり経験者の家族230名（以下、家族）から回答が得られた。

KHJ支部における 居場所に関する調査

本人

- 65名（平均年齢：35.7歳、性別：男性43名、女性18名、その他2名、不明2名）
- 現在のひきこもり状態
あり：26名、なし：37名
不明：2名

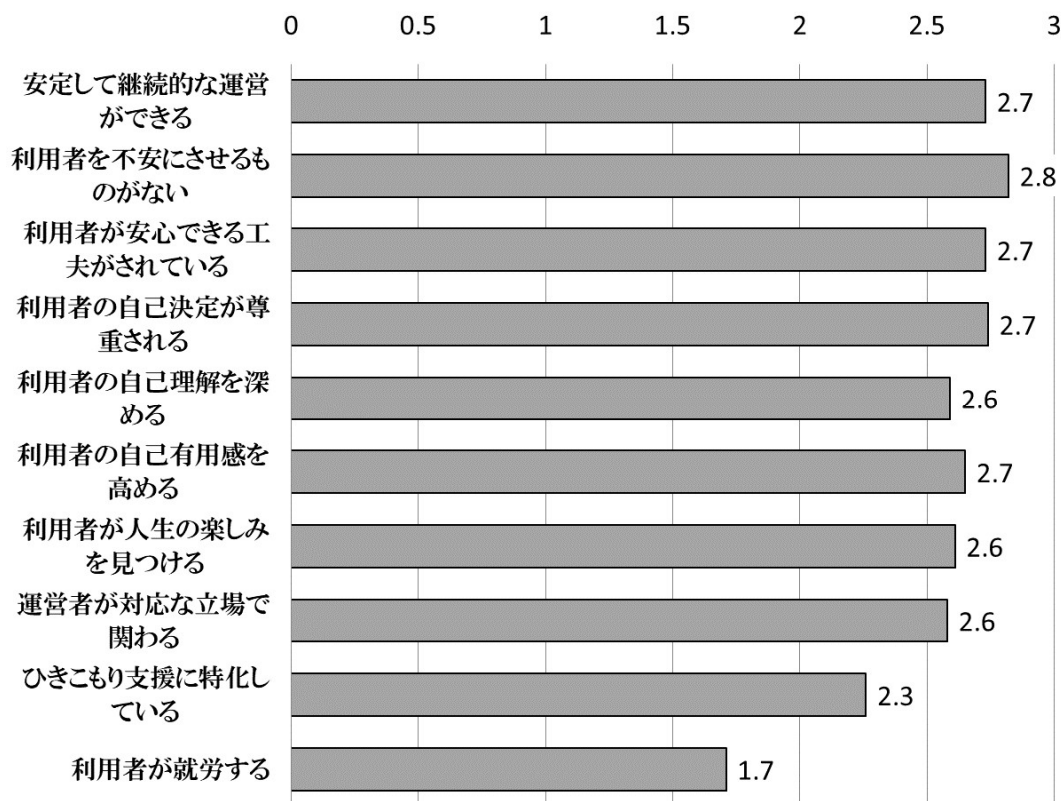
家族

- 230名（平均年齢：64.8歳、性別：父親55名、母親171名、その他4名）
- 本人の年齢：35.06歳
- 本人年齢本人の性別：男168名、女性62名
- 現在のひきこもり状態
あり：177名、なし：52名
不明：1名

居場所運営において重要と思う点

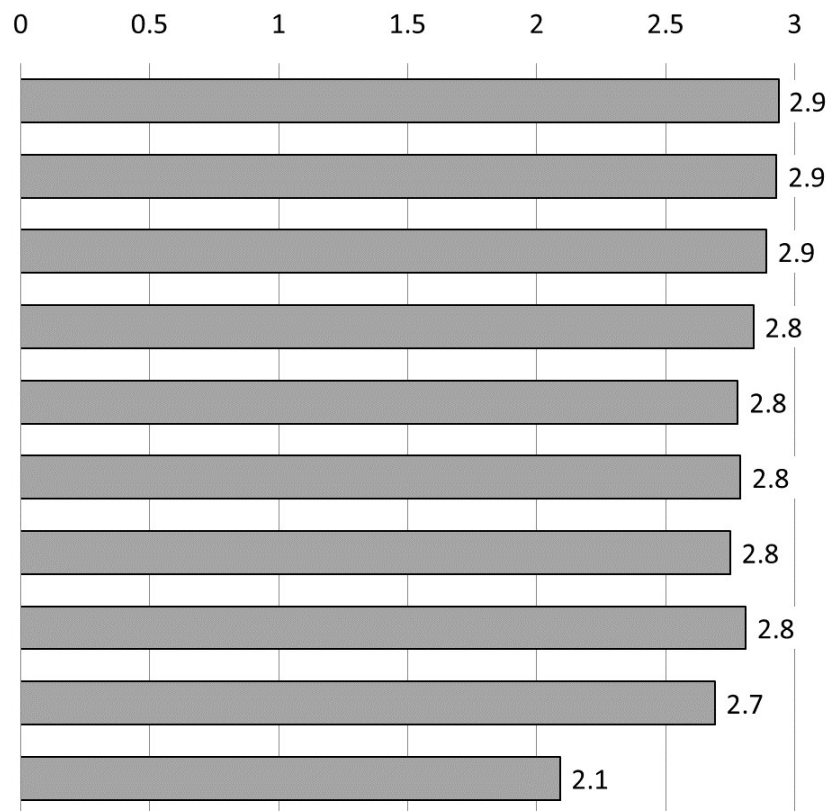
本人

回答数65 (得点範囲0~3)



家族

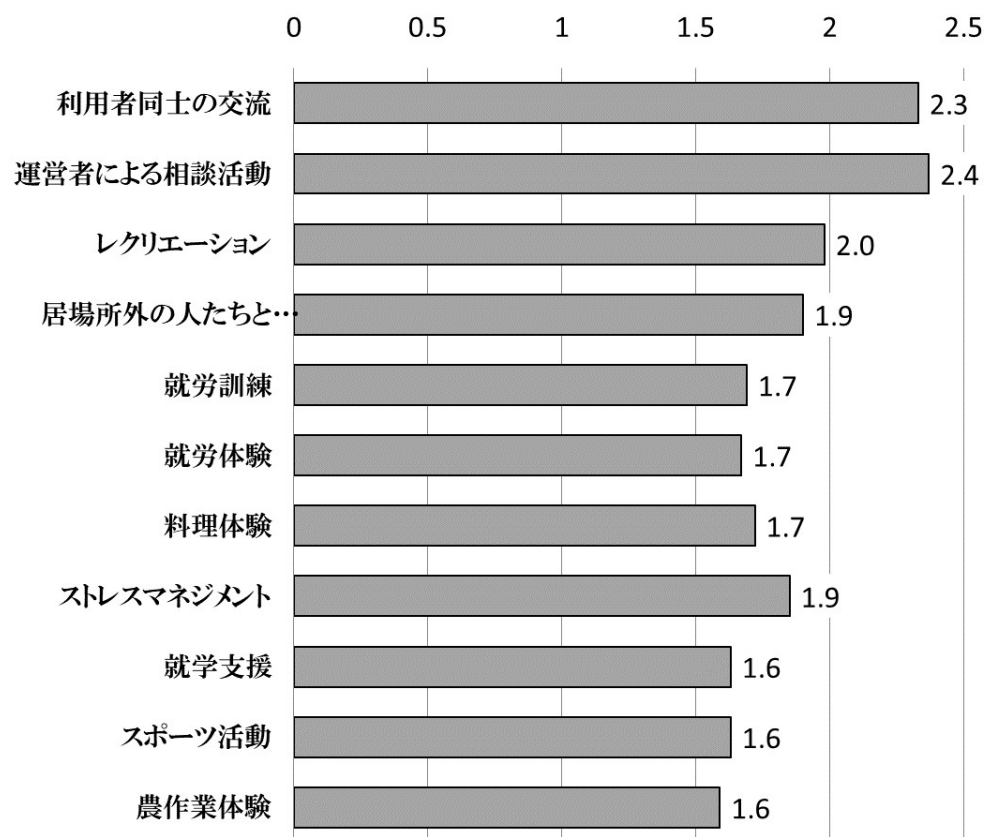
回答数230 (得点範囲0~3)



居場所において有効と思う活動

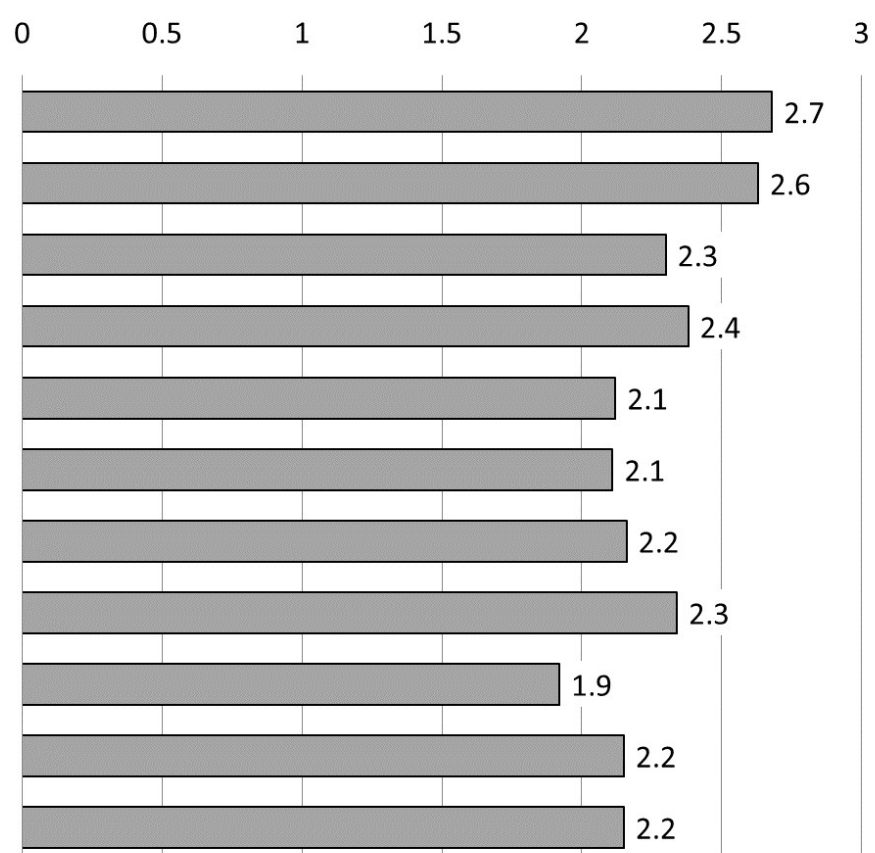
本人

回答数65 (得点範囲0~3)



家族

回答数230 (得点範囲0~3)



まとめ

調査1

- 90%の行政機関がひきこもり支援を行っているが、居場所を設置している機関は18.7%と少ない。
- 設置していない機関においても設置を検討しているのは8%に留まっている。

調査2

- 居場所の財源の大半は助成金、補助金という不安定財源である。
- 参加制限年齢として上限39歳が残っている。
- 居場所のルールとして、守秘義務が最重視されている。
- 安定した継続的運営が重視される一方、就労支援は重視されていない。
- 運営者による相談、利用者同士の交流が有効である一方、就労訓練、就学支援の有効性は低いと感じられている。

まとめ

調査 3

- 本人は人との出会いのみを求めているが、家族は問題についての相談、役立つ情報も求めている。
- 本人は参加者との交流に満足しているが、家族は問題の解消にも満足感を感じている。
- 居場所選びの際、本人は雰囲気大切にしているが、家族は世話人との相性も大切にしている。
- 安定した継続運営を重視しているが、就労は重視していない。
- 本人、家族ともに有効性を感じる活動に差はあるものの、利用者同士の交流の有効性を最も実感している点は共通している。

調査 4

- 本人は「不安にさせるものがない」、家族は「運営者が対等な立場で関わる」を最重視している。
- 本人、家族ともに、利用者同士の交流、運営者による相談が有効と推測している。

結論

- ひきこもり支援は広がっているが、居場所設置までには至っていない。
- 居場所運営において、安定した継続的運営が最も重要とされる一方で、就労支援は重視されていない。
- 居場所では、利用者同士の交流が有効である一方で、就労訓練、就学支援の有効性は低いと感じられている。
- ひきこもり本人と家族では、家族の方が多様なニーズを有している。
- 居場所を利用していない本人や家族は、利用経験者とは異なる点を重視している。